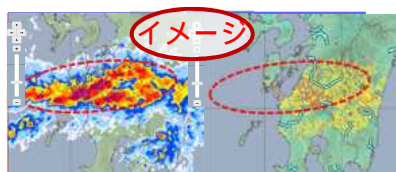


線状降水帯による豪雨に対する情報提供の改善計画

◆ 今年(2021年)から提供開始予定(時期は未定)

線状降水帯となる可能性のある降水域を検知し、気象情報で注意喚起します。

- 新型気象レーダー（福岡レーダーは12月14日より運用開始）により線状降水帯の可能性のある降水域を検出
- 気象情報で「線状降水帯発生の可能性」について提供



レーダー・危険度分布のHP上で重ね合わせて表示

イメージ

線状降水帯注意情報

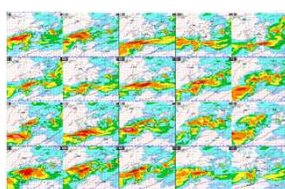
○○地方では、線状降水帯が発生しつつあります。

例えば、「線状降水帯注意情報（仮称）」により注意喚起

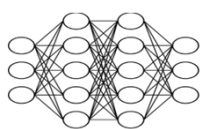
◆ 2022年から提供開始予定(時期は未定)

半日前から線状降水帯等による大雨となる可能性を情報提供します。

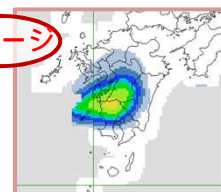
- 複数の数値予報結果（アンサンブル予報）及びAI等の技術を活用し、確率情報を作成
- 半日前から線状降水帯等により特別警報級の大雨となる確率情報を提供

アンサンブル予報
但し、解像度5km。
(個々の積乱雲の表現は困難。)

AI技術活用



イメージ

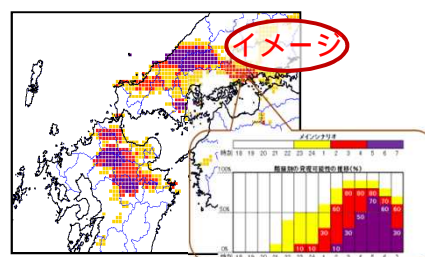


- ・特別警報級の大雨となる確率を面的に提供
- ・技術の限界から、低い確率でしか示せない。

◆ 2030年には提供開始

最新の科学的知見により解析・予測技術を向上し、徐々に精度を上げていくことにより、半日前から線状降水帯による集中豪雨に伴う危険度分布の提供を目指します。

- 今後、次期気象衛星への最新技術の導入やスーパーコンピュータの高性能化等を通じて、監視・予測技術の精度を向上
- 半日前から線状降水帯に伴う集中豪雨を高い確率で予測し、これに伴う災害発生の危険度を面的に提供



より精度の高い危険度分布を提供